



田舎源氏三十八
終局



~ 13
3742
38



仙鶴堂藏板目錄

字寶節用千金藏

源氏百人一首宝文庫

御家 正流 子供案文

柳亭隨筆 還魂紙料

田舎源氏文苑のなまひ
廿八編目録書よりなまひ編を
中何れ略せるは風流の所を
ありぬ年もあるまゝのふ
あさひの抄用形上改

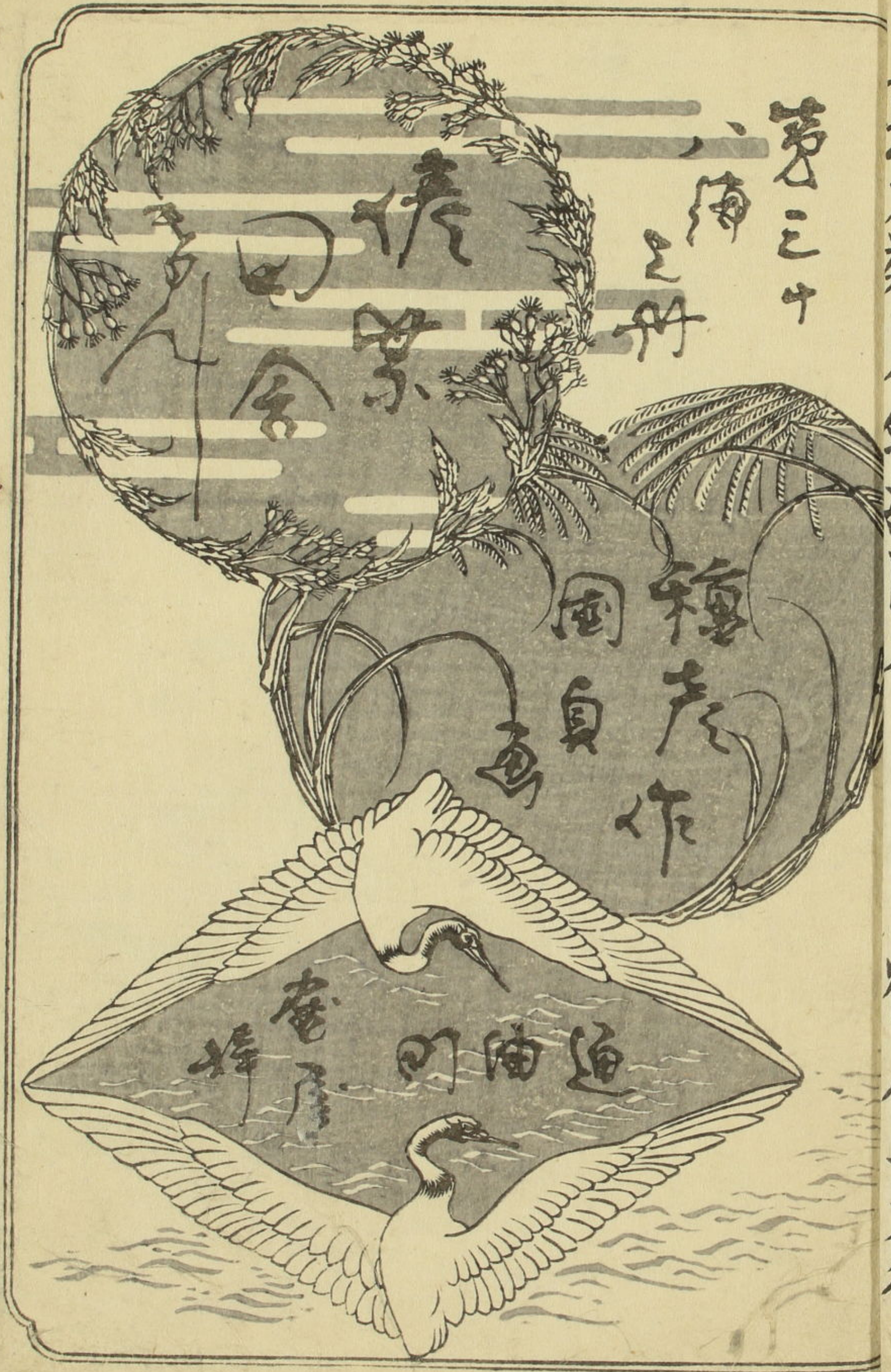
大全書状案文

女用文章色紙染

所遊び袋入 種彦の書
小繪そろう 貞秀の画
昔 火焚たぐア 全三冊
同 さちちんをく 全三冊
同 浦島茶 全三冊
茶番のいろは 全二冊
以上先年賣出り下近刻
咄 楠判官 全三冊
同 おどろき判官 全三冊

地本類東錦繪問九

鶴屋喜右衛門



懐筆

三十八編上



為
...
...

種
...
...

圓
...
...

画

以
...
...

畫
...
...



三十八編下

門へ13
3742
巻38

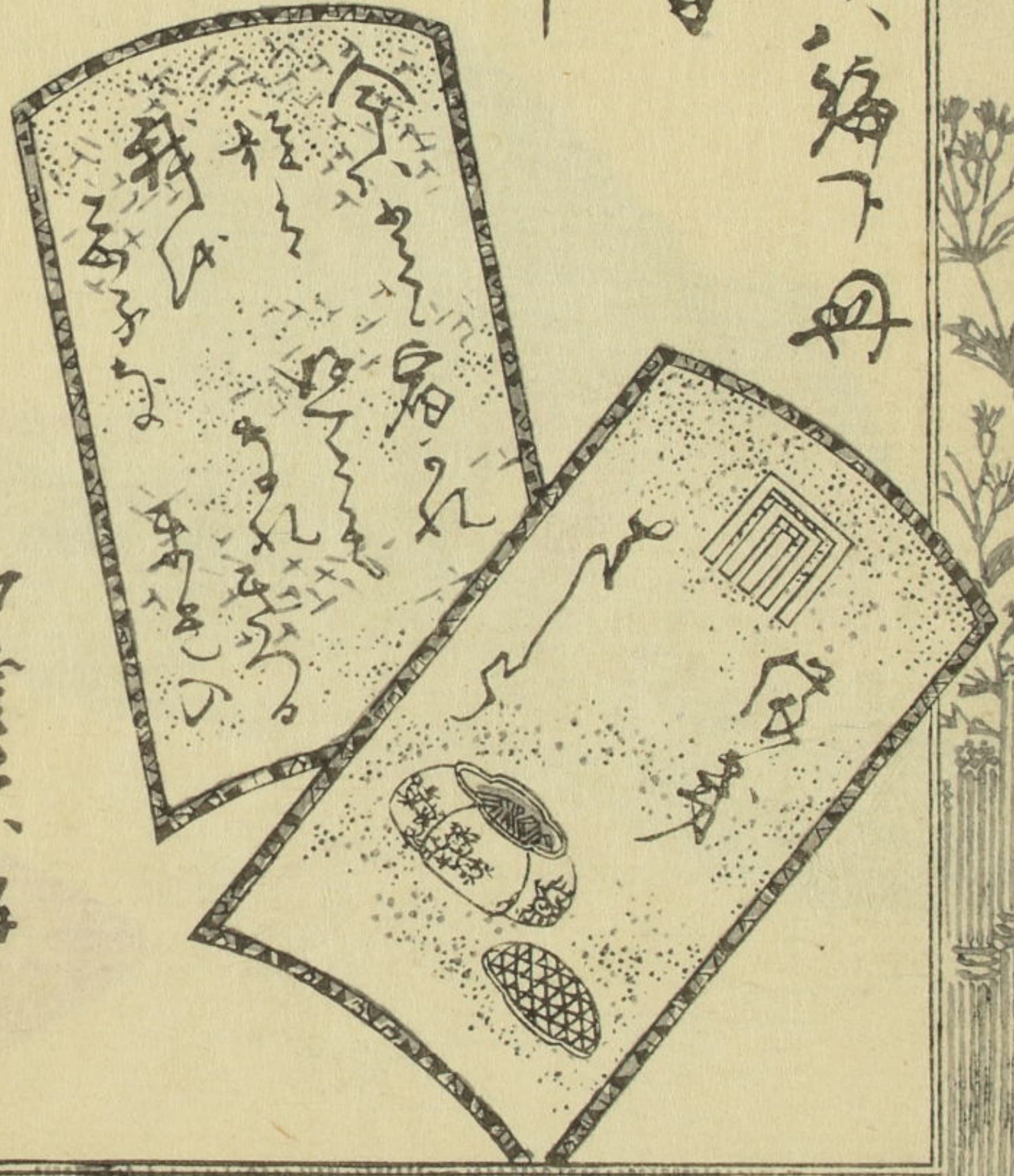
二十、海下舟

源氏

種彦

必真画

山雀集



延宝四年撰 至末集 定貞の句小名あも似む月をそれ九行燈と云

る八行燈の序の女郎の寔と玉子の四角の壺物と歌ひし行燈

の九く四角の五徳が出来重宝と云云と見え延宝より其る百余年

暗合の同論あり。今の座敷の行燈の丸い物のやうふ心え箱火鉢でつら五

徳の角の物と定まりの専ら流行れ目よ訓し故也。此草紙小光氏が

大將長曲と海老の尾のやう小割りの亀戸の案ト初めの程ハ異なる髪と

あられちで思ひつが繪する羽子板押繪の類開帳庭の納め物又吉原の

軒燈の形と扇のりとのり煎餅形。悉此女と写さ目訓怪き髪風の

ともいふ思へ前より何げは二箇器の論の止し是同画の流行せし功

るべし。それいふれて自然拙作も源氏といふ。名も似むとの誹りも

らざるべく末まで續くと角の五徳と似て假我身勝多と如斯

柳亭種彦誌

源氏三十一編

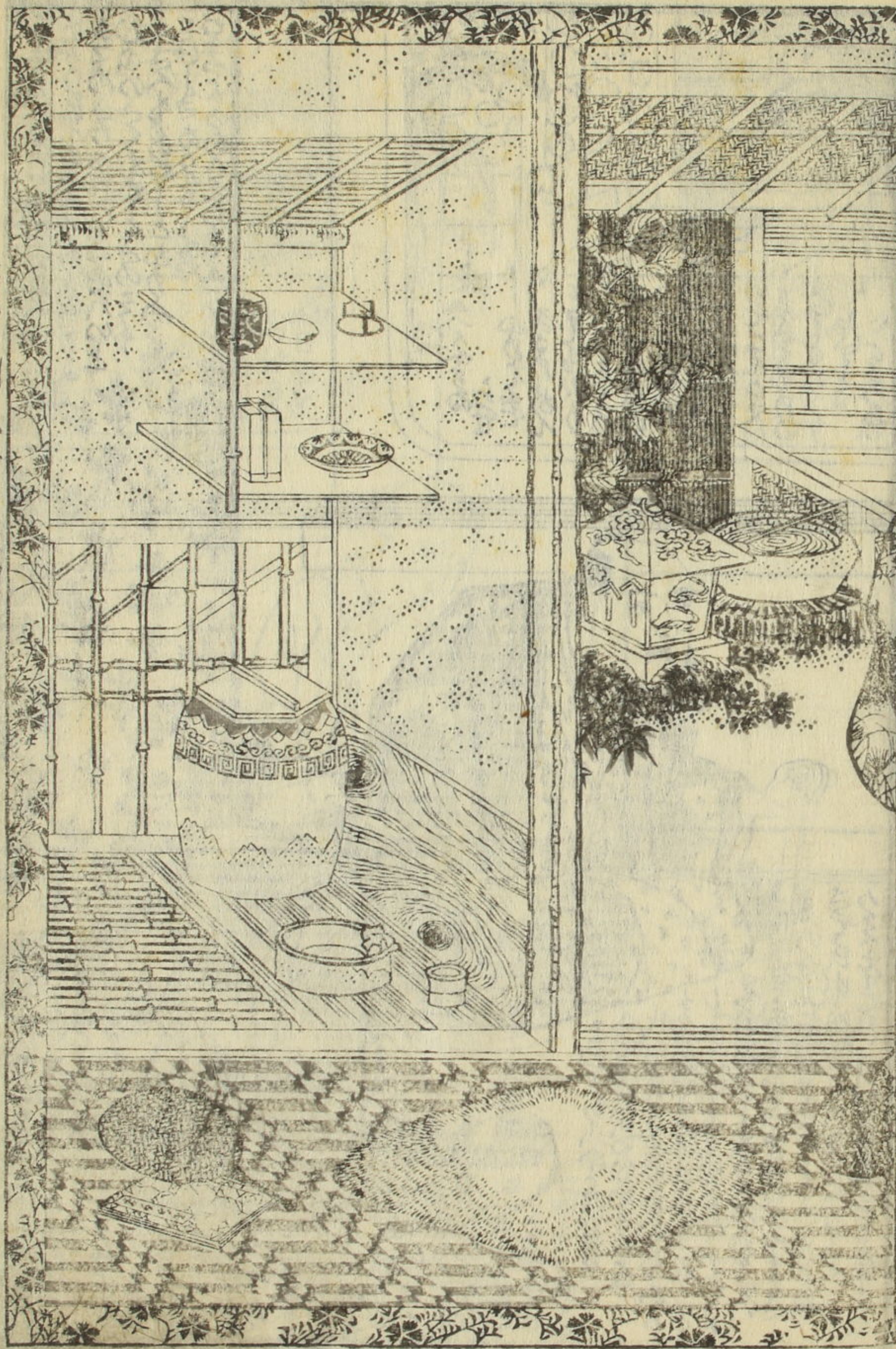
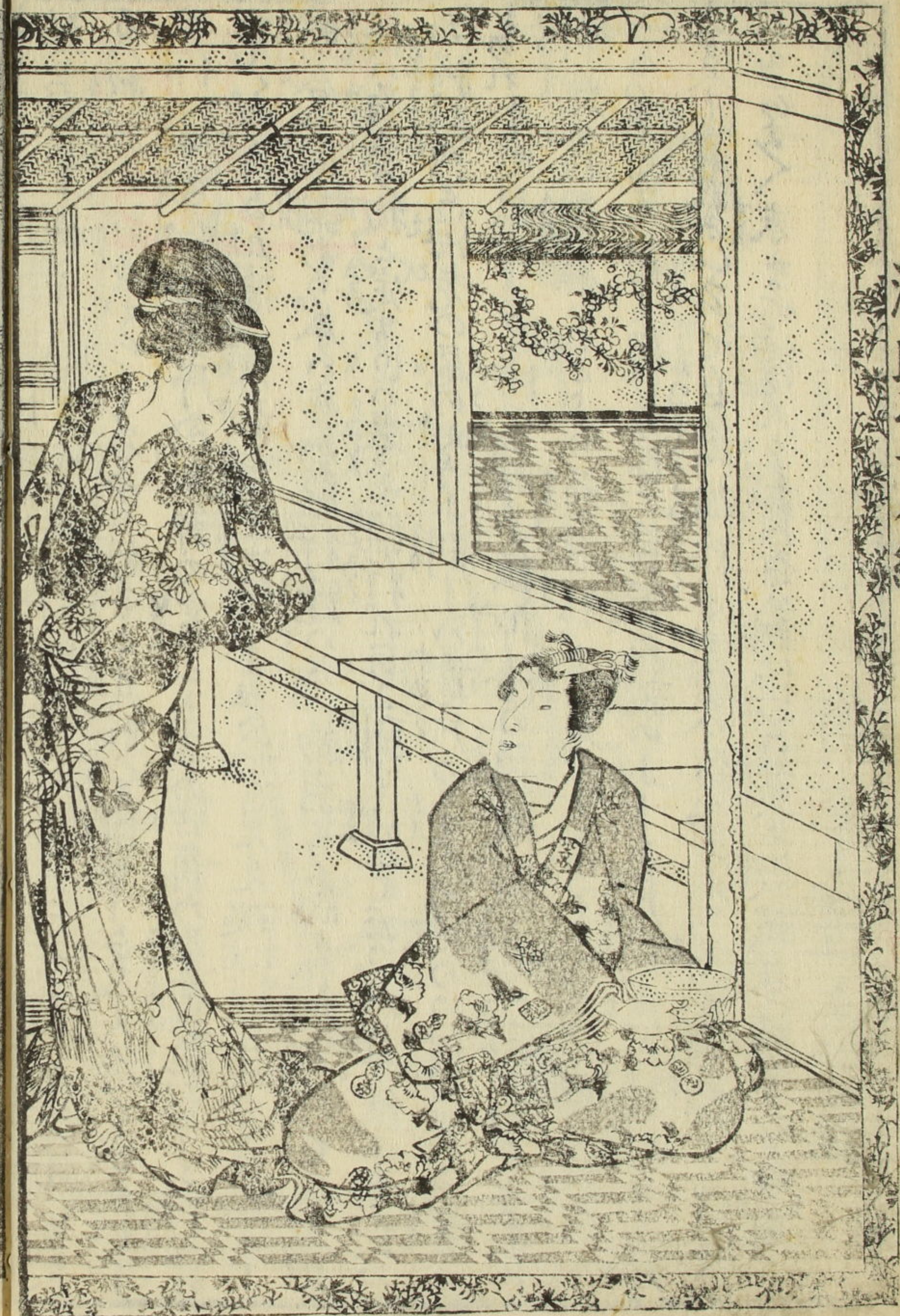


Figure 11



これらにあらざるは...
 あつたりあつたり...
 まつたりあつたり...
 むつたりあつたり...
 へつたりあつたり...
 へつたりのあつたり...

つぎまゝ
 かねを
 むつたりあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり

つぎまゝ
 かねを
 むつたりあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり

つぎまゝ
 かねを
 むつたりあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり



そのあつたりのあつたり
 氏中が...
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり



おまの
 巻
 このあつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり
 まつたりのあつたり

東...

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a diary or account, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and covers most of the page area.

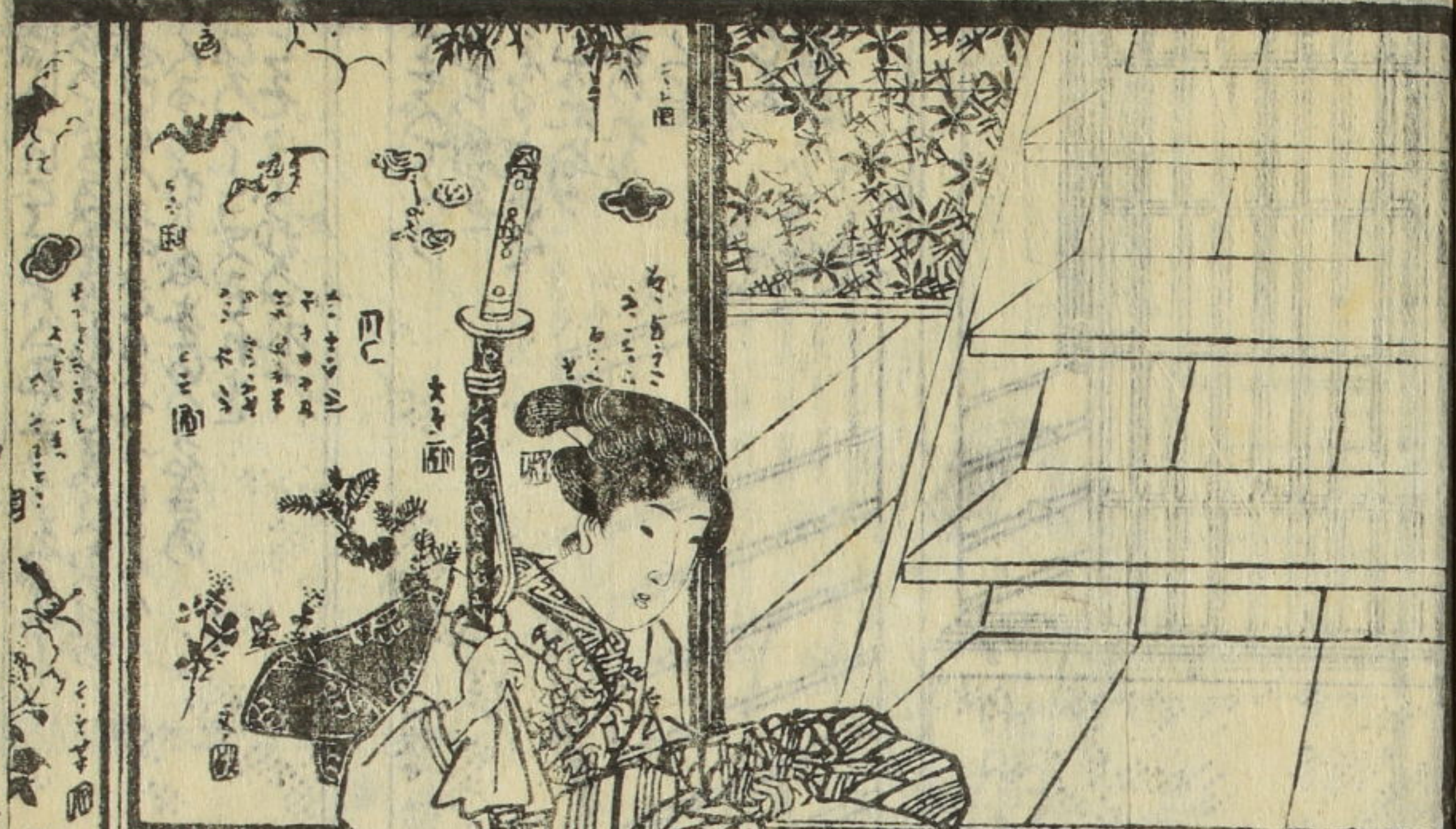
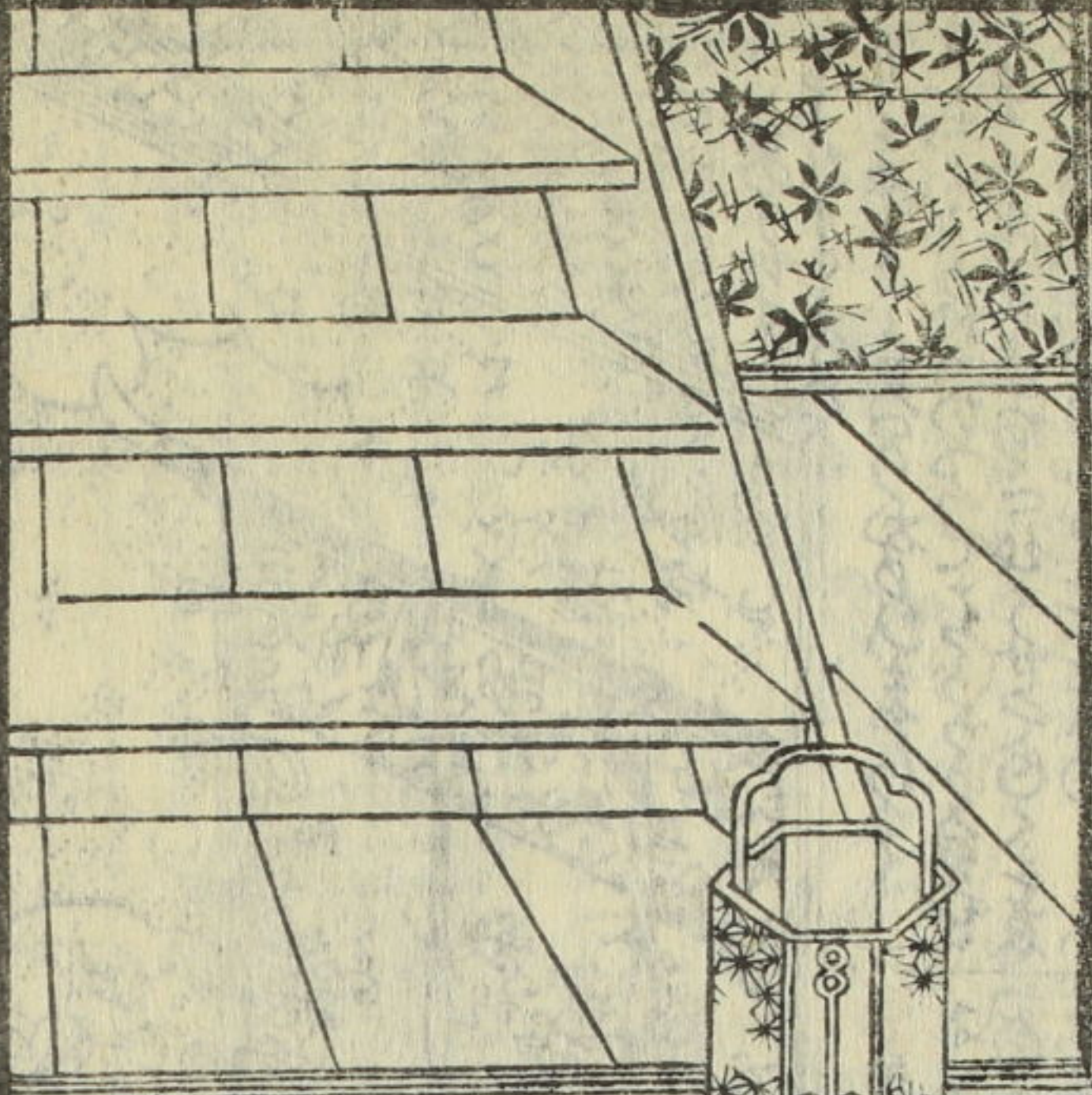


Vertical columns of handwritten Japanese text, continuing the narrative or diary entries from the previous page. The text is densely packed and follows the same cursive style.





Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration of two women.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration of a woman.

左の段に於ては...
 右の段に於ては...
 此の段に於ては...



此の段に於ては...
 左の段に於ては...
 右の段に於ては...

此の段に於ては...
 左の段に於ては...
 右の段に於ては...



左の段に於ては...
 右の段に於ては...
 此の段に於ては...

此の段に於ては...
 左の段に於ては...
 右の段に於ては...

此の段に於ては...
 左の段に於ては...
 右の段に於ては...



あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中

あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中

あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中



あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中

あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中



あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中

あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中

あつとやうに女中
あつとやうに女中
あつとやうに女中

つぎは三つのおんせりあり
 ういふまうのあまのあつこ
 中あつらんとちまうせ
 あつらんとちまうせ
 とちまうせ
 父のついでに
 母のついでに
 父のついでに
 母のついでに



五つ男女の子をまきけ
 のり今さらおまけ
 せんかちまうせ
 るまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ



田二ツツホり年の入
 中あつらんとちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ

入のあつらんとちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ



六つ男女の子をまきけ
 のり今さらおまけ
 せんかちまうせ
 るまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ



七つ男女の子をまきけ
 のり今さらおまけ
 せんかちまうせ
 るまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ
 ちまうせ

天保三年壬寅新春新彫

倭紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

自文政十二年己丑
至天保十三年壬寅 十四箇年繪草紙

三十八編 柳亭去夏より秋くけ病氣のころは新漸く快氣仕
ひる草稿出来次第右五帳の巻は遠用板仕の 仙雀堂敬白

雛形 嫁禮 鴛鴦物語 初編四冊二編四冊 金澤万八笑増談
山東京山作 松竹園秀山作 五雲亭貞秀画

美艷仙女香 製所 坂本氏
黒油美香 取次



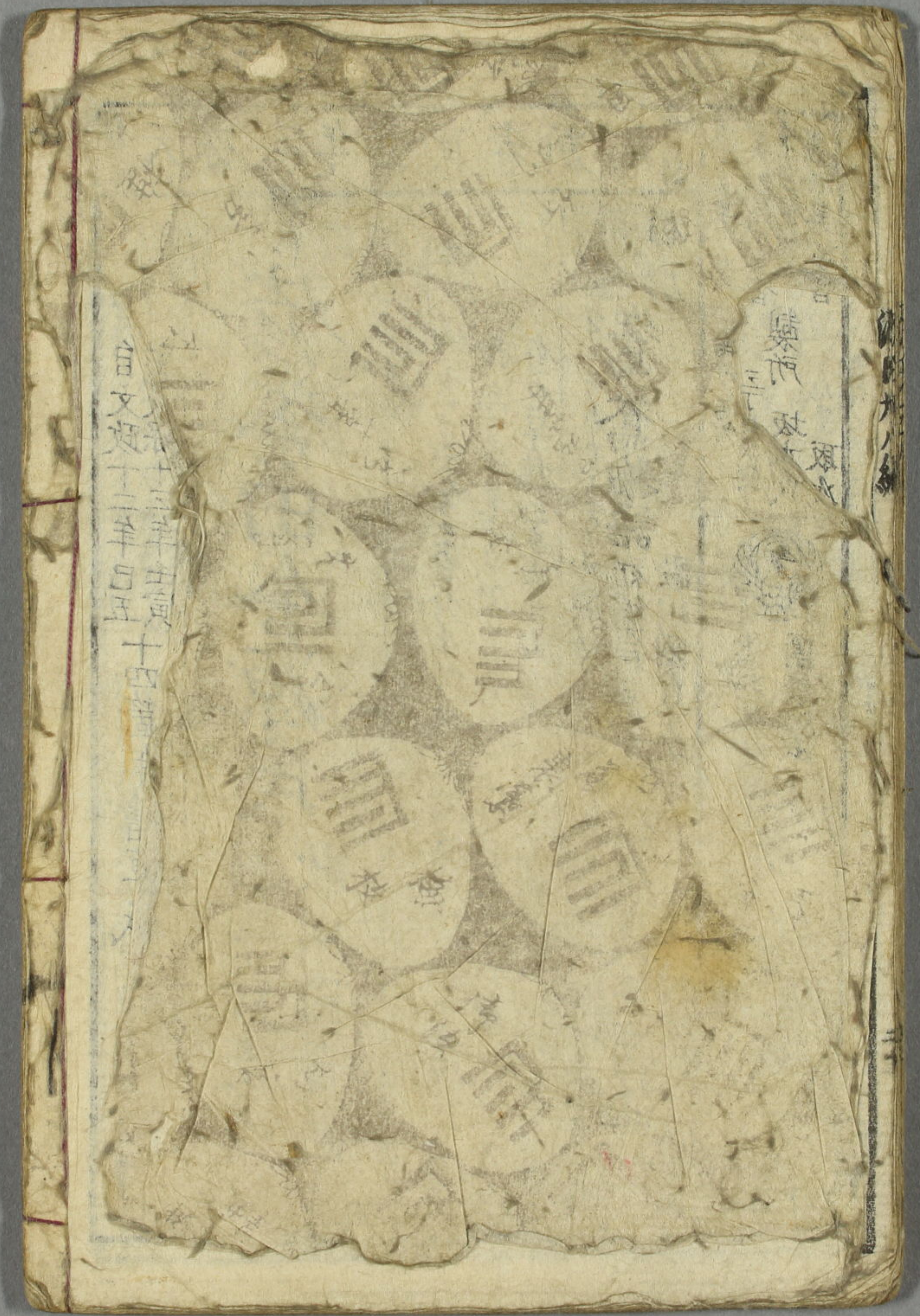
書物錦繪 團扇地紙 問屋 鶴屋喜右衛門
江戸通油町

國貞画種彦作



光氏... (Vertical text columns describing the scene or the artist's style)

一色... (Vertical text columns providing details about the illustration or related works)



白文

十四

卷八